

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・井上	写真・後藤
山行番号	NO. 1935		
日 時	2021年7月31日(土) 曇り時々晴れ(下部・蒸し暑い)		
山 域	山梨・乾徳山(2031m)		
コース	静銀(遠藤)-新潟運輸6:20(井上)-三嶋神社旧246(合谷)-御坂峠-塩山-徳和-林道最上部8:43-錦昌水10:00-扇平-乾徳山-北ピーク(昼食)12:30-13:10-水のタル-国師ヶ原-錦昌水-登山口15:40-長泉(片道=約104km)		
累計標高差	上り・下り	登山口(最上)約988m~乾徳山2031m=約1043m	
快適度	5段階=5		
難易度	非常に困難	困難	やや困難 レ普通(ただし、上り岩場あり) やや易しい
鳳岩攻略と錦昌水の水浴びは最高の快樂			
参加者	後藤、勝又、合谷、井上、遠藤(沼津労山) = 5名		

駿東山の会の斎藤さんが不参加となり、沼津労山の遠藤さんを含めた5人での山となった。遠藤さんの今回の参加理由は、先週の乗鞍岳が天候不順のため頂上に行けず「不完全燃焼」に終わったので、「完全燃焼」するためということでした。

東名裾野ICから高速に乗り、新しくできた新御殿場ICを經由して富士五湖道路を走る。料金は合わせて片道1050円。下道で信号ごとに止まるよりかなり早い。



林道終点



錦昌水

登山客用駐車場を通過し、徳和川沿いにさらに林道を上がって、より登山口の近くに車を止めようということになったが、以前より道が荒れているとのことだった。道幅は狭いし凸凹、岩はごろごろで、やめておけばよかったと後悔。しかしバックで戻ることもできない。今日最初のスリルを早くも味わった。

988mにある登山口の少し上に1台なら車を止められるスペースがある。8:30に到着し8:43にスタート。植林の杉の林は、セミの鳴き声でうるさい。気温はさほど高くないが無風で湿度が高いためか、体の中の熱が放散せずたまるようで、汗がサウナのように止まらない。ズボンが汗でぬれて

乾かないパターンだ。勝又さんがお疲れで遅れ気味。

10:00、錦晶水という水場で休憩。ここまでノンストップの1時間17分。この下に銀晶水という水場あったが寄らなかった。そこでは水の音は聞こえなかったので流れていなかったかもしれない。頭から水を浴びた。森林サウナで汗をかき、この水がまるで水風呂のように冷たく気持ちいい。水温は10℃くらいか。この瞬間はすっきりする。

再び登りだすと、水浴びの気持ちよさはどこかに行き、再びあついあついと言いながら歩く。2度、遠雷を聞いた。



扇平

遠藤さんが休憩をしたいと小声で言うが、先に行く後藤さんの耳には届かない。加藤さんがいる時は、いつも歩きだして30分もすると「後藤さーん、おなかすいたー」と大声で訴えるので、毎度の後藤さんと加藤さんとの「朝ご飯を食べた食べてない」の掛け合いがあった後、休憩になる。

岩場が始まるとクサリ、ロープが現れる。いやあ、楽しい。両手両足を駆使して体をぐんぐん持ち上げるのは、どうしてこんなにわくわくするのだろうか。きっと、手を使わないと登れない状況が目の前に現れたとき、それを克服すると幸せを感じる物質か何かが脳に分泌されるのだろう。



カミナリ岩

途中で落とし物を発見。大学の学生証とポイントカードが入っていたので、後藤さんが持ち帰り



鳳岩・井上

大学に送ってあげるそうだ。遠藤さんが登りにくそうなところでは、下から荷物を支えたり、脚をもったりして上がってもらった。

クライマックスの鳳岩（おおとりいわ）登場。高さは10mくらいか。最初の5mくらいはのっぺりとして垂直に近く感じる。その中に何か所か溝や引っ掛かりがある。遠藤さんが1番手になり、下からアドバイスを出すことになった。2mくらい上がったが、その次の一手が見つからずに断念した。その後、単独の男性が2人やってきたので、先に登ってもらった。一人目は荷物を下に置いてきたとのことで、空身ですいすいと登っていった。2人目は、荷物はあるが小さい。

1人目ほど身軽ということはないが難なく登った。壁の右手に迂回路が表示されている。合谷さんは遠藤さんが迂回路を選ぶなら一緒に行こうと考えていた。しかし、遠藤さんは「完全燃焼」のために来たのだし、今日のために赤いヘルメットも購入してきたので、勇気をだして再挑戦を決めた。下からは後藤さんと私で、あらゆるアドバイスを発し、遠藤さんは自ら足の位置を微調整し工夫して手と足の置き場を見つけクリアし、自分のことのように大変うれしかった。



合谷



遠藤



勝又

2番手の合谷さんはクサリに体重を預けすぎスリリングな体制になったがクリアした。3番手は自分の番で、なめてかかると落ちるぞと気持ちをぐっと集中させた。足が滑りひやりとするところもあったが、あわてず足場を見つけることができた。

この岩壁はとりわけ危険という表示はなく、登ってしまえばそれなりに手足を置くところはあったが、それでも怖くないかといえぼうそになる。落ちれば間違いなく大けがをするし、最悪死ぬのではと思わせる。登り切って、大きな達成感を味わう。感動を仲間で共有できるのも幸せ感が大きい。無事、全員がクリアし、頂上で写真を撮った。

雷のことも心配なので、隣の北峰まで進み昼休憩とした。ここで、天気が好転し青空が見え、今登ってきた乾徳山の頂上を眺めながらの食事となった。今回は、帰りの車の運転は私がすることになっているので、ビールは持ってこなかった。2006年から後藤さんと山登りをして、ビールを持ってこなかったのは初めてかもしれない。酔うことなく、いたってシラフの昼休みだ。

物足りなさを感じながらも、この後の下りの道は岩ごろごろの沢で相当足場が悪かったので、結果的には飲まなくて正解だった。もしかすると、飲んでる方が足取りは良いかもしれないけれど。



乾徳山頂上

足場が悪いので歩きづらく、下りでも上りと同じく大汗をかき、これまた上りと同じく錦晶水で水を浴び急速冷却。一時の快樂が訪れる。帽子を水にぬらしたのでしばらくは頭と首が冷え冷えだった。しかし、またすぐに汗がしたたり落ちる。途中、シカの群れに遭遇。普通なら人の姿を見たらすぐに逃げていくのに全然逃げない。親子で少なくとも12頭は確認した。下りに飽きたころ、真最中の東京オリンピック2020の話題で気を紛らした。

15:40 駐車した場所にゴール。上りは3時間47分、下りは2時間30分だった。2013年の記録を見ると、上り2時間58分、下り1時間15分。すごい。

合谷さんがなかなか下りてこない。心配していたら、15:56、林道の全く反対方向から姿を現した。途中の林道を横切るときに、そのまま右折して林道に入り、道なりに行ってしまったようだ。一応、スマホで自分の位置を確認し、遠回りながらも無事到着したようだ。先行者の姿が見えなくなることもあるので、しっかりついていくか、登るときによく道や周囲を見ておかなければいけない。私も過去には何度か先行者が見えなくなるほど遅れたことはあるが、遅れる時はかなり疲れているので判断力も鈍るだろう。先行するほうも、後ろがついてきているか確認しなければいけない。

駐車場の近くに流れる小川に足を浸すととても気持ちよかった。

すでに4時をまわっているので、温泉はパス。下土狩について満貫で直来。がまんしていたビールはこの上なく美味しい。これもまたよし。でも、山頂の風景を眺めながら達成感を感じて飲む炭酸麦ジュースはたまらない。今日もやっぱり脚も腰も痛い。

以上



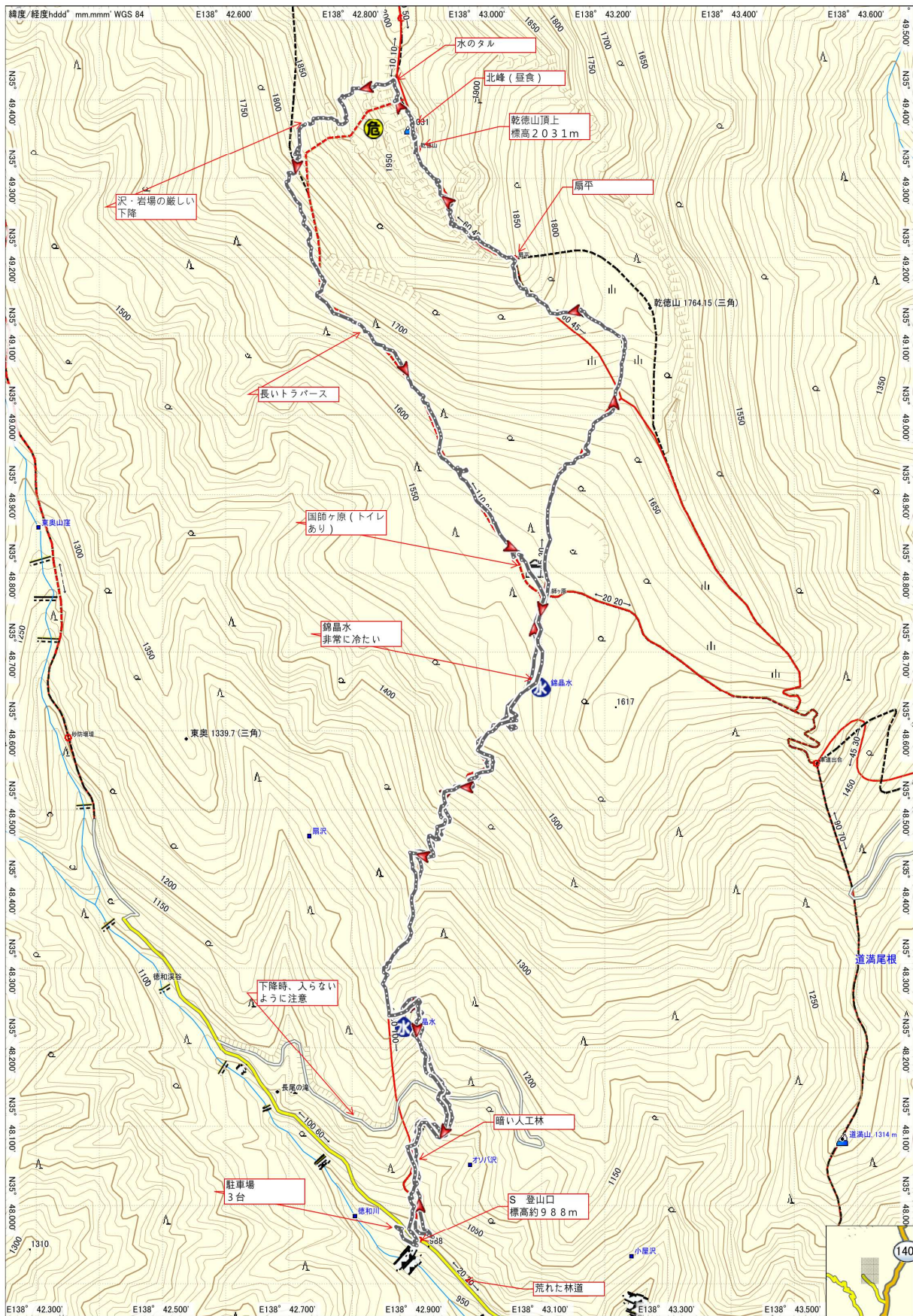
北峰から乾徳山

遠藤さん感想

2年前に一度登ったことのある乾徳山。最後の岩のイメージが印象的で登れるか不安でしたが、ここ3回ほど山頂を踏んでいないのであの岩を登りたい思いだけで参加させて頂きました。乾徳山登山口よりまだ上の空き地に車は止まり、ここからスタート。長い登りが続き風もなく蒸し風呂状態。とにかく暑くて汗だくとなり水分補給しまくりでした。途中の錦晶水で腕だけ汗を流し気持ちよかったです。男性陣は頭から水をかぶってとても気持ちよさそうでした。十字路を過ぎ、扇平で休憩するかと思っていたら富士山も見えずそのまま進む。シモツケソウ、ホタルブクロなどの花を見つながら岩場手前で休憩。ここから山頂まで鎖場が3ヶ所、何故か最初から体が重く上がらずどなたかがリュックを押し上げてくださり登ることができやれやれ。感謝しかありません。最後の岩場も足の置き場をアドバイスしてもらいながら、何とか登りきることができとてもうれしかったです。ほんとにありがとうございました。

北峰まで行ってお昼休憩をし、乾徳山をバックに写真を撮ってもらい下山。下山道はガレ場で歩きづらく大変でした。高原ヒュッテでトイレ休憩をしてひたすら下る。途中までついて歩いていたが、離れてしまい最後の登山口に行く道に自信がなくスマホを見て確認。無事下山してホッとしました。朝から遅刻したりご迷惑をおかけしてすみませんでした。冷えた塩トマト頂いたり、鹿の群れも見たり、いろいろ教えてもらったり楽しい山行となってよかったです。 遠藤

- 追伸・・・
1. 勝又さんから、国師ヶ原の鹿写真をいただきました。
 2. 落とし物、連絡がついて8/4日送りました。 (後藤)



Japan Topo 10M Plus V3
 © Garmin Corporation 1989-2014

2021/08/01 15:47:56

0 m 100 m 200 m 300 m 400 m

GARMIN